

編 集 後 記

1991年（平成3年）10月11日発行の川崎医療福祉学会誌1巻1号の編集後記に、当時の編集委員長緒方正名先生が、本誌は、医療技術、社会福祉、基礎教育の部門より構成されており、本誌が回を重ねるに従って、質・量共に優れたジャーナルとなることを切に希望している……と述べておられます。

そこで、早速、質・量共に優れた……を考えますと、量に関しては、掲載論文数や頁数が多ければ、一応目的を達成したことになります。しかし、質に関しては、一定の判定基準がある訳ではなく、また、それがあったとしても、本誌への投稿論文は、極めて広範囲で多彩ですので、質の判定は仲々難しく、殊に、自分の専門領域外の場合は、一層その感を深くします。また、質に拘泥し過ぎますと、投稿・掲載論文数の減少を招くことになりかねませんので、回を重ねるに従って、質・量共に優れた学会誌となることは大変なことだと思いますが、そのように精一杯努力する他はありません。

ところで、本誌に望ましい論文は、当然ながら、医療福祉に役立つ、或は、現在は直ぐには役立たなくても、その基礎となるような論文だと思います。

深刻な問題となっている高齢・少子化社会を考えますと、加齢は致し方ないとしても、医療福祉に関して、創意工夫に基づいた、万人が納得するような、老化の予防・遅延、健康の増進・維持、身体障害の予防・リハビリなどに関した、基礎的・医療技術的・社会福祉的研究などの論文が望ましいと思います。

高齢社会、換言すれば平均寿命が延びている社会は、平均寿命が延びれば延びる程、元気な高齢者が増加するのであり、高齢社会になればなる程、障害老人が増えるとの考えは間違った発想であるとの意見もあり、高齢社会をあまり恐れる必要はなさそうにも思われますが、高齢者が増加して、少子化と相俟って色々な面で問題が生じていることは事実ですので、やはり、この方面での研究論文も望まれます。

以上、西暦2000年を迎えるに当たり、医療福祉社会を目指しての本学会誌の意義を再認識し、欲張った希望を書かせて頂きましたが、本学会誌に相応しい内容の論文を多数御投稿下さいますよう、お願い致します。

編集委員 折田 洋 造

川崎医療福祉学会誌

平成11年12月25日発行

発行者 江 草 安 彦
発行所 川 崎 医 療 福 祉 学 会
〒701-0193 倉敷市松島288
印刷者 常 松 高 坏
印刷所 西尾総合印刷株式会社 横井支店
〒701-1145 岡山市横井上90
連絡先 川崎医療福祉大学 中央教員秘書室
〒701-0193 倉敷市松島288
TEL 086-462-1111 内線4995
086-464-1009 (直通)
FAX 086-464-1109